

**新たな時代令和を
切り拓く一年に!**

帯広郵便局

料金別納

タウンプラス

北海道議会議員
村田 光成

道政だより

帯広版

北海道議会議員

むらた光成 みつしげ

帯広・十勝の活力を

北海道の確かな未来へ。

ごあいさつ

私の議員活動に対し、日頃よりご理解・ご協力を賜り、心から感謝と御礼を申し上げます。

昨年の統一地方選挙において、皆様のご支援をいただき北海道議会議員に初当選して以来、早いもので9カ月が過ぎました。この間、さまざまな課題に対し、市民(道民)目線で、『郷土と子供たちの未来のために!』との想いで議員活動に取り組んできました。

現在、北海道の人口は約530万人。しかし10年後の2030年には約488万人と推計されています。全国を上回るスピードで人口減少と少子高齢化が進む中、災害に強い北海道や地域経済の活性化などの課題にスピード感を持って対応し、活力あふれる『帯広・十勝・北海道』の実現に向けて、皆様とともに全力で

取り組んでまいります。現在猛威を振るっている新型コロナウイルスについても、道議会自民党として道に対し、道民への感染防止対策に万全を期すとともに、大きな影響が懸念される観光業への十分な対策を講じるよう働きかけているところです。

本年は、アイヌ文化を発信する民族共生象徴空間『ウポポイ』が4月24日にグランドオープンするほか、東京オリンピックのサッカー予選・マラソン・競歩が本道で開催されます。さらには、道内7空港の一括民営化がスタート。2021年にはアジア初となる『アドベンチャートラベルワールドサミット』の開催と『北海道・北東北縄文遺跡群の世界遺産登録』の実現を目指しており、その後も『赤レンガ庁舎』改修完了(2022年)、北海道日本ハムファイターズの拠点となる『北海道ボールパーク』の

開業(2023年)、『北海道新幹線札幌開業』と『冬季オリ・パラ北海道・札幌大会』の招致実現(2030年)などの課題が控えています。北海道の未来を切り拓く起爆剤となるこれらの『チャンス』を活かし、北海道の発展に向けて皆様とともに全力で取り組んでまいります。今後とも、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道議会議員

村田 光成

プロフィール

昭和42年10月10日、帯広市生まれ。帯広農業高校、東洋大学経済学部卒。帯広市議会議員4期を経て、平成31年北海道議会議員に初当選。道議会議会運営委員、同保健福祉常任委員、同少子・高齢社会対策特別委員。

村田光成事務所

〒080-2464 帯広市西24条北1丁目3番地31 TEL:0155-67-1155 FAX:0155-67-1567
ホームページ: <http://www.murata-mitsushige.jp/index.html>

道政報告

村田光成は昨年6月28日、第2回定例道議会で当選後初となる一般質問に立ち、北海道強靱化や防災・減災対策などの重要課題について、鈴木直道知事らと論戦を交わしたのを皮切りに、12月2日の第4回定例道議会でも一般質問で交通政策など道政の重要課題を取り上げました。

第2回 定例道議会

初の道議会で堂々の論戦 路面下空洞調査について



村田議員 路面下の空洞化を原因とする道路の陥没事故が全国で頻発している。埋設されている上下水道管渠の老朽化による破損が要因であると考えられ、平成26年に札幌市が行った調査では、空洞が1000カ所発見された。道でも平成25年度から調査を行っているが、現在までの状況と空洞調査の必要性についての認識、今後の取り組みについて伺う。

小林建設部長 124路線470キロを調査し、約300カ所の空洞を発見した。このうち陥没する危険性が高い79カ所について直ちに補修を行い、残る箇所も適切なパトロールを行うなど、計画的に調査に取り組んでいく。

第4回 定例道議会

公共交通の展開をたどす

村田議員 スマートフォンのアプリを用いて利便性の高い公共交通を目指す「MaaS(マース)」導入に向け、道による十勝管内を対象にした実証試験の第1弾が令和元年10月から1カ月間行われた。利用者はQRコードから出発地と到着地を入力すると、JR、路線バス、飛行機などの移動手段を組み合わせた移動ルートが提案され、各経路の料金や時間も表示され、観光情報も発信する。訪日外国人旅行者にとって道内を周遊する上での阻害要因の一つが、2次交通の情報が不足していることだと考えており、ルート検索、予約、運賃決済、観光案内や飲食店の情報などを一元化するシステムに向けて、令和2年には第2弾の実証試験が行われると聞いているが、今後の展開を伺う。

鈴木知事 1月からの実証実験では、経路探索機能に



加え、タクシーの予約、バスなどの定額乗車券の決済機能を付加するほか、地域と連携した特典の付与についても検討を進めている。成果や課題を関係機関と共有するとともに、民間委託を行う道内7空港を中心としたマースの展開に向け取り組んでいく。

予算特別委員会でスマート農業やATWSについて問う

昨年9月25日～10月2日に開かれた予算特別委員会では、スマート農業やATWS(アドベンチャートラベルワールドサミット)など道政の重要課題について論戦を交わした。情報通信技術(ICT)を活用したスマート農業をめぐる、更別村など道内5カ所での実施が採択された国の実証実験について、未採択となった地域への対応をただしたのに対し、道は引き続き国に採択を働きかけていくと答えた。

道が招致を目指している2021年のATWSについては今後の課題を問い、道は事業者に対するおもてなし向上の研修や効果的なプロモーション活動を展開していくと応じた。

子供たちの学力向上などの教育環境の改善につ



いても質問。少人数学級編成によって期待される効果やそれに伴う教員確保策などをただした。道教委は少人数学級の拡大できめ細やかな指導が可能となり、深い学びの実現に向けた授業改善が進むとし、教員確保については国の加配定数を効果的に活用し、あわせて国に対して加配の拡充を強く要望していった。

その他の質問

◇少子・高齢社会対策特別委員会

- ・児童虐待について
- ・介護報酬不正受給について

◇保健福祉委員会

- ・残薬防止に向けたモデル事業について
- ・後発医薬品使用割合の状況と今後の取り組みについて

◇予算特別委員会

- ・教員の資質能力向上について
- ・小学校における教科担任制について
- ・エネルギー政策について
- ・自動運転について
- ・ホタテ貝の生産について
- ・漁船リース事業について
- ・林業イノベーションの推進について
- ・アライグマ対策について
- ・農畜産物と物流について

団体政策懇談会で各種団体と意見交換

北海道議会自民党・道民会議の「団体政策懇談会」が昨年10月7～11日の5日間にわたって開催され、経済、一次産業、医療・福祉、建築土木、運輸、教育など、各種友好団体45団体から要望や提言を聴き、活発な意見交換をしました。

この懇談会は道政上の懸案事項や要望・提言を来年度予算や施策に反映させるため、毎年開催しています。道政にかかわるさまざまな課題を一つでも多く解決できるよう、私も全力で取り組んでいます。



北海道近未来技術研究会

昨年10月4日、私が所属する道議会の自民党・道民会議の有志18人で、道内における宇宙産業振興などに向けて「北海道近未来技術研究会」を立ち上げました。私は幹事に就任。この日の初会合では、道の担当部署から宇宙産業の現状や自動運転の取り組みについて説明がありました。道内では昨年5月に大樹町で打ち上げられた民間単独によるロケットが、国内で初めて宇宙空間に到達したほか、全国に先駆けて農業や水産業で人工衛星データの活用が進められています。研究会では科学技術の向上とイノベーションの創出に向けて、宇宙関連技術をどう活用していくか、現地視察や勉強会を通じて検討を進めていきます。



開発予算確保に尽力

来年度の北海道開発予算をめぐって、昨年12月20日に協議を行い、開発予算拡充について意見交換しました。来年度については、今年度当初比で1.02倍の5748億円となり、これで8年連続の増加となりました。これに国土強靱化のための臨時・特別措置として644億円が上乗せされ、11年ぶりに6000億円を超えた令和元年度と同規模の6393億円が確保されました。引き続き、本道にとって必要な予算の確保に尽力してまいります。



農業振興について活発な議論

TPP、日欧EPAに続き、今年1月には日米貿易協定が発効しました。その一方で、人口減少とそれに伴う人手不足に歯止めがかからず、道内をはじめ、日本の農業を取り巻く環境はかつてない激変期にあります。こうした中、道議会自民党・道民会議は現場の声を聴き、本道の農業振興を着実に進めるために日々取り組んでいます。昨年12月

5日には、道議会庁舎内で懇談会を開催し、活発な意見交換を行いました。今後も、本道の農業の未来を切り拓くために取り組みます。



フォトグラフ

帯広市議会議員の経験を道政に活かし日々研鑽を積んでいます。私のモットーは市民・道民目線で状況を確認し、的確に対処することです。これからも初心一貫、鈴木直道知事を先頭にワンチームで道政発展に向け頑張ります。



鈴木直道知事と令和新時代を築きます



知事公館中庭で鈴木直道知事を囲んで
同僚議員(会派1期生)の皆さんと



十勝毎日新聞社を訪れ、道政報告



村田憲俊道議会議員を囲んで



道議会運営委員のメンバーと事前打ち合わせ



東京で開催された議員研修会